

平成24年度 全国学力・学習状況調査

## 札幌市の調査結果の概要

—教科に関する調査の結果—

平成24年9月

札幌市教育委員会

# 調査の概要

## 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることに十分に配慮することが必要である。

## 2 対象学年

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

## 3 調査の内容

### ① 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 (国語A、算数・数学A・理科)	主として「活用」に関する問題 (国語B、算数・数学B・理科)
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

### ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 4 実施日

平成24年4月17日 (火)

## 5 調査対象校数及び調査を受けた人数等

### 【札幌市】

	調査対象校数	調査対象校における対象学年の在籍数	調査を受けた人数及び参加率	
小学校	44校	3,225人	3,143人	97.5%
中学校	32校	5,067人	4,834人	95.4%
合計	76校	8,292人	7,977人	96.2%

※中学校には特別支援学校中学部を含む。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

- 「話すこと・聞くこと」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「書くこと」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「読むこと」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度である。
- 「言語事項」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

- 「話すこと・聞くこと」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「書くこと」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「読むこと」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「言語事項」の平均正答率
  - ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

※ いずれの領域についても、記述式の問題における無解答が、全国平均よりやや多くなっている。

今回の調査における課題

- 提示された資料を読み取った上で、必要な数値を引用しながら質問したい内容を明確にして考えを述べること。
- 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じ必要な事柄を整理し、簡潔に書いたり詳しく書いたりすること。
- 手紙の構成を理解し、必要な事柄を的確に押さえ、順序や位置に気を付けて後付けを書くこと。
- 目的に応じて本や文章を読み、中心となる語や文、段落相互の関係を押さえて、内容を的確に捉えること。
- 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くこと。

改善の方向

- 目的に応じて、図表や絵、写真等の資料を取り上げ、読み取ったことを基に話したり聞いたりする言語活動を通した指導の充実。
- 一文一文が的確につながるように書いたり、相手や目的に応じて調べたことなどを基に新聞を書いたりする言語活動を通した指導の充実。
- 依頼状や案内状、礼状等、実用的な文章として手紙を書く指導の充実。
- 目的に応じて、図鑑や百科事典等の資料を効果的に活用するとともに、中心となる語文を捉えて図や表などに構造的にまとめたりする言語活動を通した指導の充実。
- 国語辞典や漢字辞典を積極的に利用して調べたり、文の意味を理解した上で、漢字を正しく使おうとしたりする習慣が身に付く指導の充実。

小学校国語

分類	国語	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成24年度	
		全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	書くこと	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	読むこと	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	言語事項	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
問題形式	選択式	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	短答式	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	記述式	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆

△(上回っている) ◆(ほぼ同程度) ▽(下回っている)

※ 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

本市の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p><b>【区分及び領域】</b></p> <p>主として「知識」に関する問題(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「数と計算」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「量と測定」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「図形」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「数量関係」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均に比べ、下回っている。</li> </ul> </li> </ul> <p>主として「活用」に関する問題(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「数と計算」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「量と測定」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「図形」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「数量関係」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乗法及び除法の計算の意味や仕方などについて理解し、それらを適切に用いて四則の混合した計算をすること。</li> <li>● 面積についての感覚を身に付け、身近なもののおよその面積を判断したり、計算して求めたりすること。</li> <li>● 平面図形の定義や性質について理解を深めることや、立体図形における辺や面の位置関係に着目して考えること。</li> <li>● 計算の順序についてのきまりを理解し、四則の混合した式などを正しく計算することや、百分率などの割合の考えを用いて数量の関係を読み取ったりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数直線や図を用いて、既習と関連付けながら、用いる演算を判断し、計算の意味や仕組みについて理解を深めるとともに、計算結果の見積りを生かしながら正しく計算することができるよう習熟を図る指導や、数直線に表しながら、数の処理や数の性質について理解を深める指導の充実。</li> <li>○ 基準となる量を基にして、身の周りの面積や体積などの量について見当を付けたり、面積や体積を求める公式を導き出したりする算数的活動を取り入れた指導の充実。</li> <li>○ ものの形について観察したり、構成したりする活動を通して、基本的な図形についての理解を深め、問題解決に活用する指導の充実。</li> <li>○ 具体的な場面と式の表現とを結び付ける指導や、数量（基準量、比較量）の関係を割合（百分率）や数直線、グラフ、式などに表すとともに、それらを相互に関連付けて数量の関係を読み取ったりする指導の充実。</li> </ul>

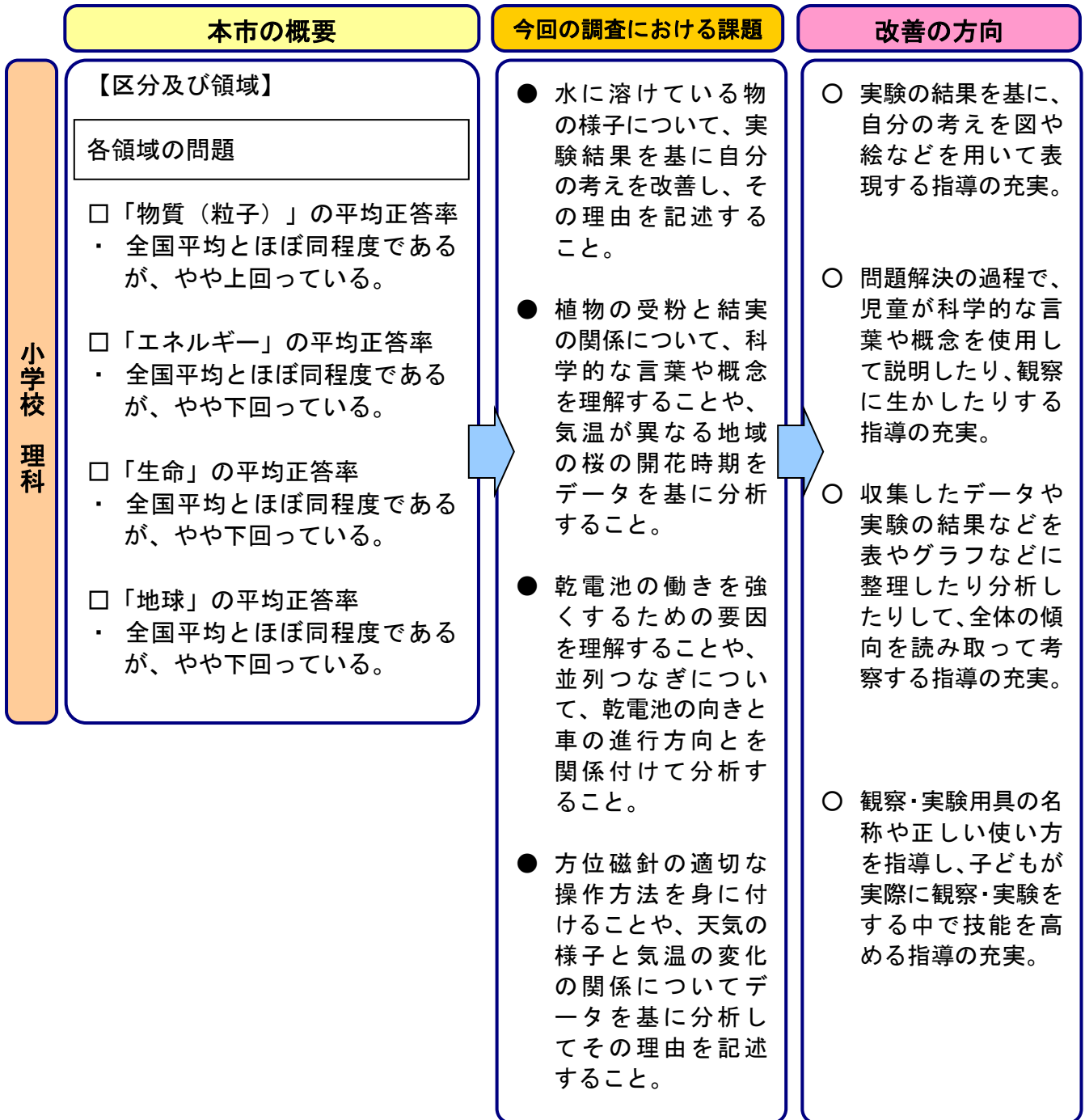
小学校算数

小学校算数

算数		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成24年度	
		全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)
学習指導要領の領域	数と計算	▽	▽	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	量と測定	▽	◆	◆	◆	▽	◆	▽	◆	◆	◆
	図形	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	数量関係	◆	◆	▽	◆	◆	◆	▽	◆	▽	◆
問題形式	選択式	◆	◆	◆	◆	▽	◆	◆	◆	◆	◆
	短答式	▽	◆	▽	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	記述式		◆		◆		◆		◆		◆

△(上回っている) ◆(ほぼ同程度) ▽(下回っている)

※「ほぼ同程度」は、全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。



小学校理科

理科		平成24年度
分類	区分	全国との比較
学習指導要領 の領域	物質（粒子）	◆
	エネルギー	◆
	生命	◆
	地球	◆
問題形式	選択式	◆
	短答式	◆
	記述式	◆

△（上回っている） ◆（ほぼ同程度） ▽（下回っている）

※「ほぼ同程度」は、全国平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

本市の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p><b>【区分及び領域】</b></p> <p>主として「知識」に関する問題(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「話すこと・聞くこと」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「書くこと」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「読むこと」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均に比べ、上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「言語事項」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> </ul> <p>主として「活用」に関する問題(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「話すこと・聞くこと」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「書くこと」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「読むこと」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均に比べ、上回っている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くこと。</li> <li>● 手紙の形式を理解して書くこと。</li> <li>● 比喩を手掛かりにしながらか脈をたどり内容を理解したり、比喩という言葉と結び付けて表現の仕方を理解したりすること。</li> <li>● 物語の場面の展開を捉えたりすること。</li> <li>● 目的に応じて必要な情報を読み取ること。</li> <li>● 文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話の展開に注意して聞いたり、自分の考えを体験や読書経験などに基づいた具体例を挙げて分かりやすく書いたりする指導の充実。</li> <li>○ 様々な機会を捉えて手紙を書く活動を設定し、頭語・結語・時候の挨拶などが果たす役割を考えながら書くようにする指導の充実。</li> <li>○ 比喩などを使って表されている事柄を、表に整理したり図に表したりして、表現の技法と文章の中の表現とを結び付けながら考えさせる指導の充実。</li> <li>○ 文章の特徴や表現の仕方に着目し、朗読などの言語活動を通して文学的な文章を主体的に読む指導の充実。</li> <li>○ 明確な目的をもち、自分にとって必要な内容を取捨選択しながら読み進める指導の充実</li> <li>○ 実際に漢字を読んだり書いたりする機会を多くして習熟を図る指導の充実。</li> </ul>

中学校 国語

中学校国語

分類	国語 区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成24年度	
		全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	◆	◆	◆	△	◆	△	△	◆	◆	◆
	書くこと	◆	◆	◆	◆	◆	◆	△	◆	◆	◆
	読むこと	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	△	△
	言語事項	◆	◆	◆	◆	◆	△	◆	△	◆	△
問題形式	選択式	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	△
	短答式	◆	△	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	△
	記述式	◆	◆	△	◆	◆	△	◆	◆	△	△

△(上回っている) ◆(ほぼ同程度) ▽(下回っている)

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。



本市の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p><b>【区分及び領域】</b></p> <p>主として「知識」に関する問題(A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「数と式」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「図形」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「数量関係」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均に比べ、上回っている。</li> </ul> </li> </ul> <p>主として「活用」に関する問題(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 「数と式」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均に比べ、上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「図形」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均に比べ、上回っている。</li> </ul> </li> <li>□ 「数量関係」の平均正答率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国平均に比べ、上回っている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 式の値について、その意味を考察することや、数量の大小関係を不等式に表わすこと。</li> <li>● 具体的な命題について、仮定と結論を区別して、もとの命題の逆を作ることや、証明の意義について理解すること。</li> <li>● 2つの数量の関係において、式や表、グラフの関係や特徴を理解することや、資料を整理したものから、その特徴を読み取ること。</li> <li>● 問題解決の方法や、図形の性質を数量の関係に着目して捉え直し、その特徴を捉えたものを数学的に表現すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な場面に照らして求めた式の値や、目的に応じて等式や不等式を変形する意味、変形した式を利用することのよさについての理解を深める指導の充実。</li> <li>○ 具体的な命題やその逆について、真偽を確かめる活動や、証明の必要性和意味についての理解を深める指導の充実。</li> <li>○ 2つの数量の関係において表、式、グラフの特徴を捉え、相互に関連付けて理解を深める指導や、資料の活用にあたり、代表値の意味やヒストグラムのかき方を理解するだけではなく、資料の傾向を読み取り、説明する指導の充実。</li> <li>○ 問題解決の方法や手順について説明し、話し合うなどの活動を取り入れた指導や、事象の中の数量関係を、既習の内容と関連させ考察し説明する指導の充実。</li> </ul>

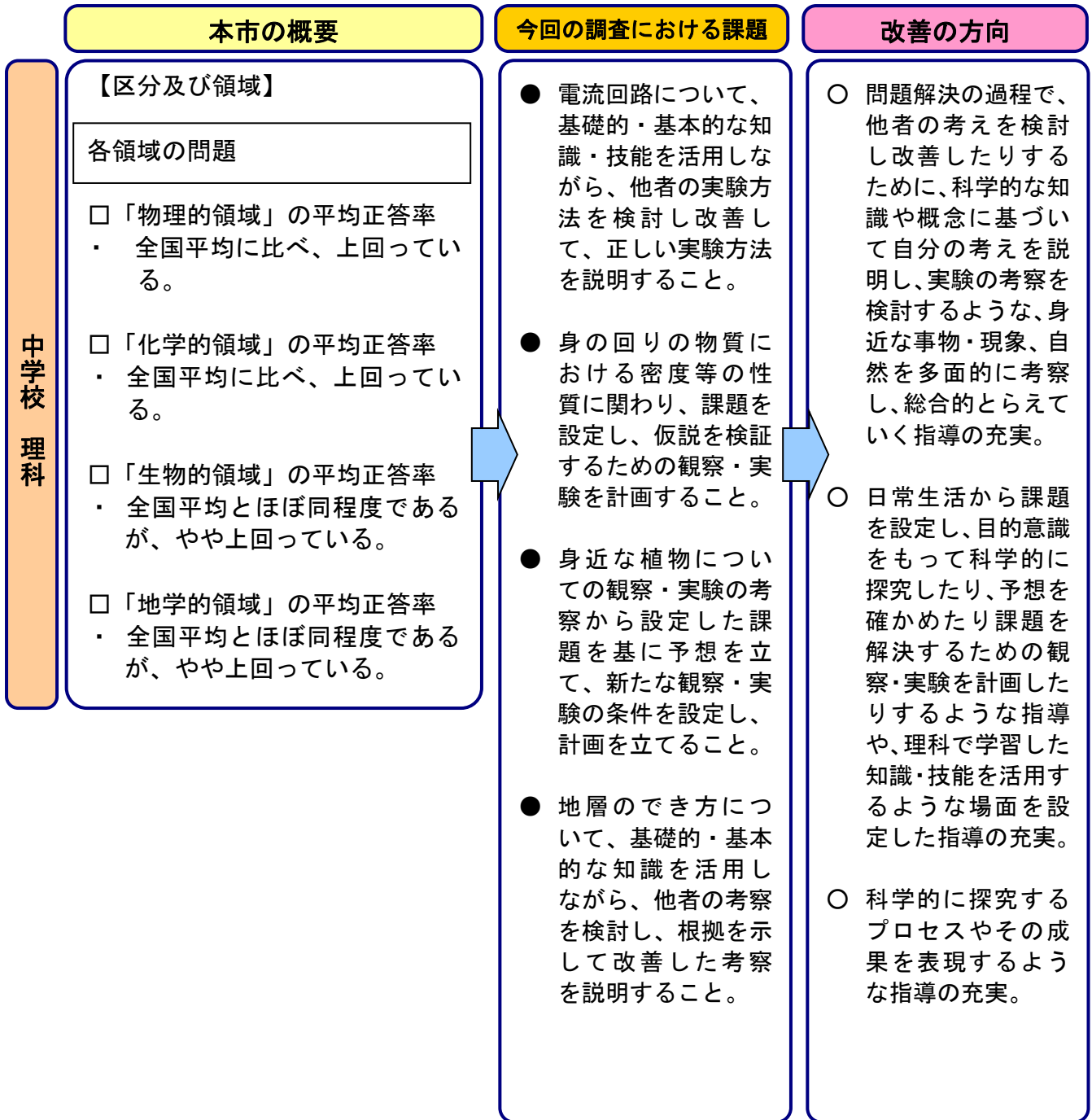
中学校  
数学

中学校数学

数学		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成24年度	
分類	区分	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)	全国との比較(A)	全国との比較(B)
学習指導要領の領域	数と式	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	△	◆	△
	図形	◆	△	◆	◆	△	△	△	△	◆	△
	数量関係	◆	◆	△	◆	△	◆	△	△	△	△
問題形式	選択式	◆	◆	◆	◆	△	◆	△	△	△	△
	短答式	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	△	◆	◆
	記述式		◆		◆		△		△		△

△(上回っている) ◆(ほぼ同程度) ▽(下回っている)

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。



中学校理科

理科		平成24年度
分類	区分	全国との比較
学習指導要領の領域	物理	△
	化学	△
	生物	◆
	地学	◆
問題形式	選択式	◆
	短答式	△
	記述式	△

△（上回っている） ◆（ほぼ同程度） ▽（下回っている）

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。